

新たな森林管理システムに関する考察

—鳥取県日南町森林組合の
「山林意向調査結果報告書」の分析—

久城隆敏(島根大学大学院自然科学研究科)
伊藤勝久(島根大生物資源科学部)

《Introduction》

平成31年4月から森林経営管理制度がスタート

経営管理が行われていない森林について市町村が仲介役となり
森林所有者と林業経営者をつなぐシステムを構築し担い手を探します



これまでは森林所有者自ら、
又は民間事業者へ委託し経営管理

新たな制度を追加



※所有者不明森林へも対応

林業経営に
適した森林



経営管理を
再委託



意欲と能力のある
林業経営者

林業経営に
適さない森林



市町村が自ら管理

日南町の人工林面積

13,771ha…①

森林経営計画策定面積 (うち人工林面積)

11,749ha…②

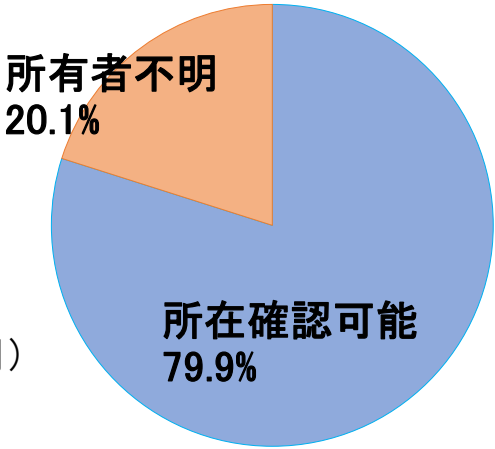
日南町の新たな森林管理 システム対象面積 (推定)

①－②＝
2,022ha

国内の森林における所有者不明土地問題の実態

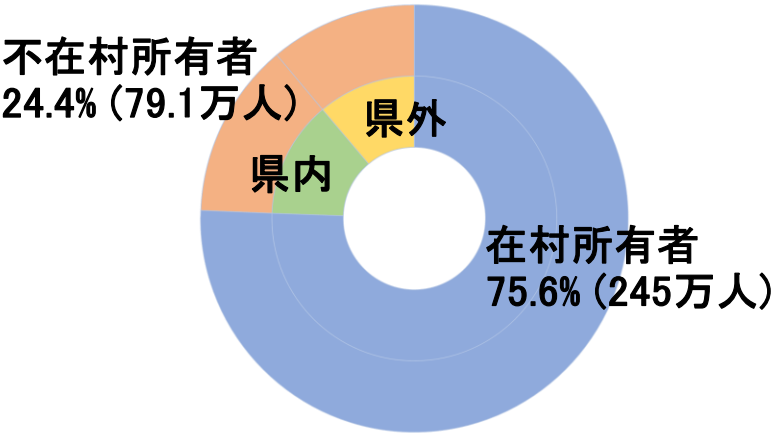
■地籍調査での登記簿上の所有者不明土地割合

宅 地	農用地	林 地	合 計
17.4%	16.9%	25.6%	20.1%



資料：所有者不明土地問題研究会中間整理 (H29年6月)

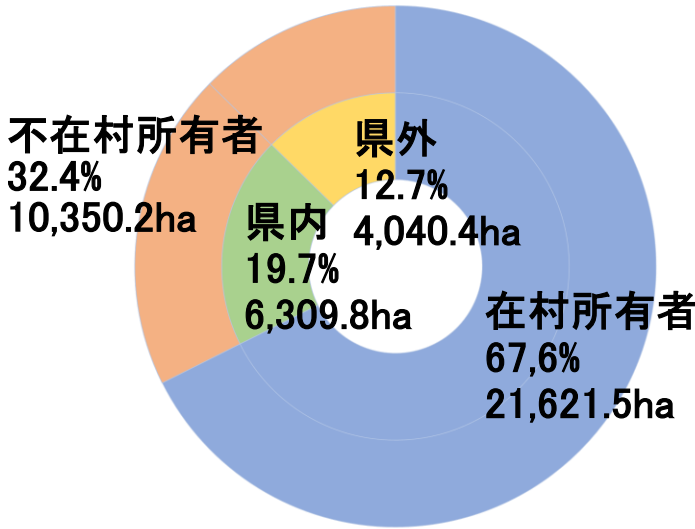
■在村・不在村者の森林所有の割合



資料：農林水産省 (2005年農林業センサス)
国土交通省 (H23農地・森林の不在村所有者に対するインターネットアンケート)

《参考》

■日南町内の在村・不在村者の森林所有の割合



出展：森林簿（鳥取県）より

《Location》

日南町は鳥取県の南西部，中国山地のほぼ中央に位置し，西は島根県，南は岡山県，南西は広島県と3県に接し，面積は約340km²で，土面積の約10%を占める。

町の林野面積は30,461haと全体の約89.3%を占め，そのうち人工林は林野面積の約62.9%で，全国平均の41.0%，鳥取県平均の54.1%を大きく上回っている。

昭和34年の総理大臣勧告による昭和の大合併により誕生した日南町。合併当時の人口は15,286人であったが，「38豪雪」（昭和38年）を機に人口の流出が進み，4,514人（住民基本台帳令和元年10月末現在）と激減している。



地 目		面積 (ha)	割合 (%)
※森 林		30,461	89.3
農用地	田	1,418	4.2
	畑	258	0.8
宅 地		189	0.5
その他		1,770	5.2
計		34,096	100.0

※出展：鳥取県林業統計より

日南町の林業について

■ 林齢構成

7齢級 (35年生) ～ 11齢級 (55年生)
→ 収穫期を迎えている

■ 構成樹種

スギ 466万 m^3 (伐期413万 m^3)

ヒノキ 145万 m^3 (伐期117万 m^3)

■ 年間生産量

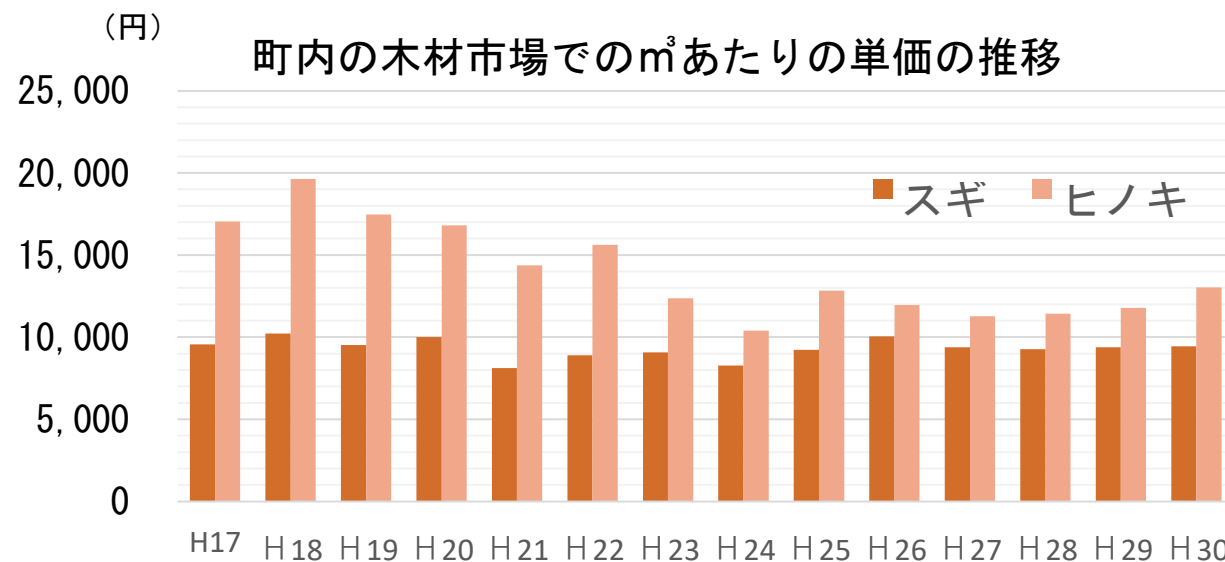
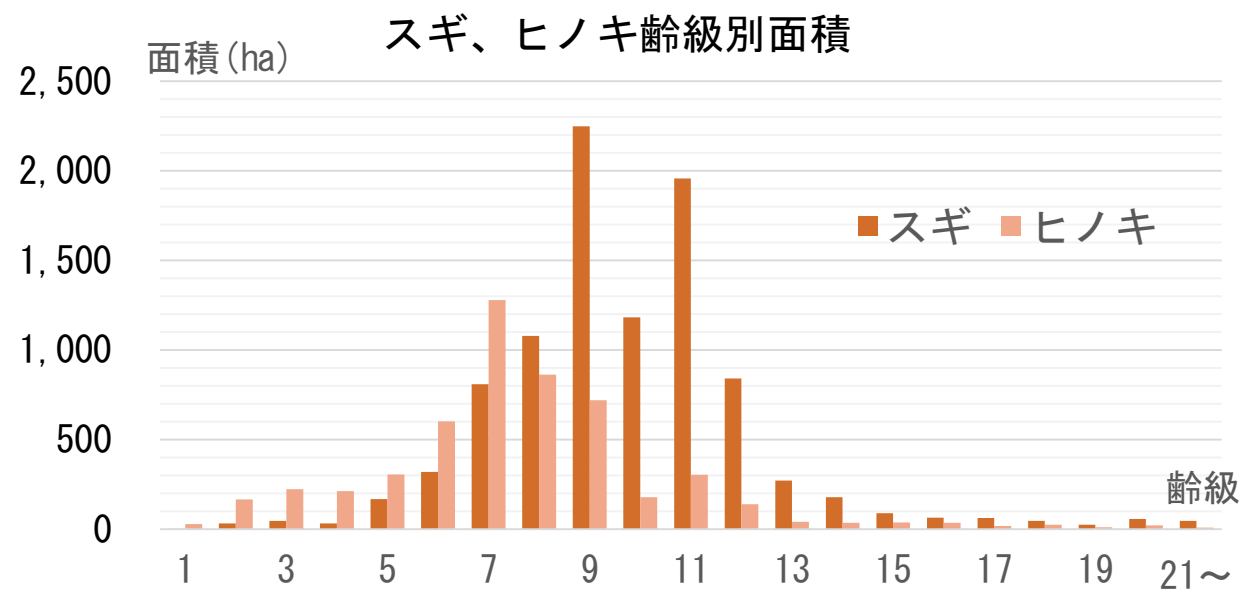
約8.5万 m^3 (年間成長量：約10.9万 m^3)

■ 町有林

約2,300ha

皆伐7～10ha/年、間伐30～40ha/年

町有林出荷量：6,000～7,000 m^3 /年



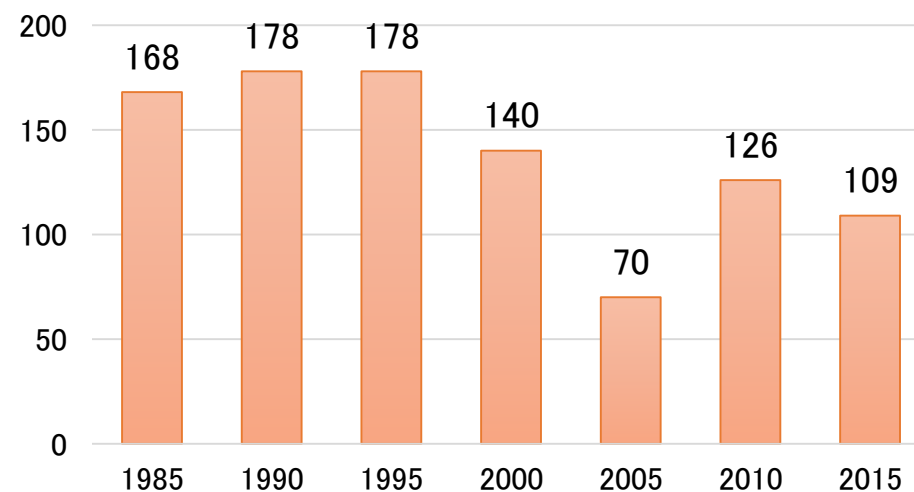
地域再生計画の認定(2005) ～林業成長産業化モデル事業(2017)

- 日南町では林業再生事業を体系的に推進し、地球環境と生態系に配慮した林業を目指すこととし、2005年には、**地域再生計画「地球環境にやさしい新森林業の形成」**が認定となった。
- その中で、総合的木材流通加工拠点の整備を図ることを掲げ、2006年には、『**日野川の森林木材団地**』にそれら関連事業体に移転、新たな操業を開始した。
- 2017年には、林業成長産業化モデル地域に選定され、循環型林業の確立と担い手の育成に取り組んでいる。
- 1995年から減少傾向にあったが、素材生産の増加に伴い、回復傾向にある。2010～2015年では若干の減少となっているが、20～30代が約3割を占めており、若い後継者が育ち始めている。

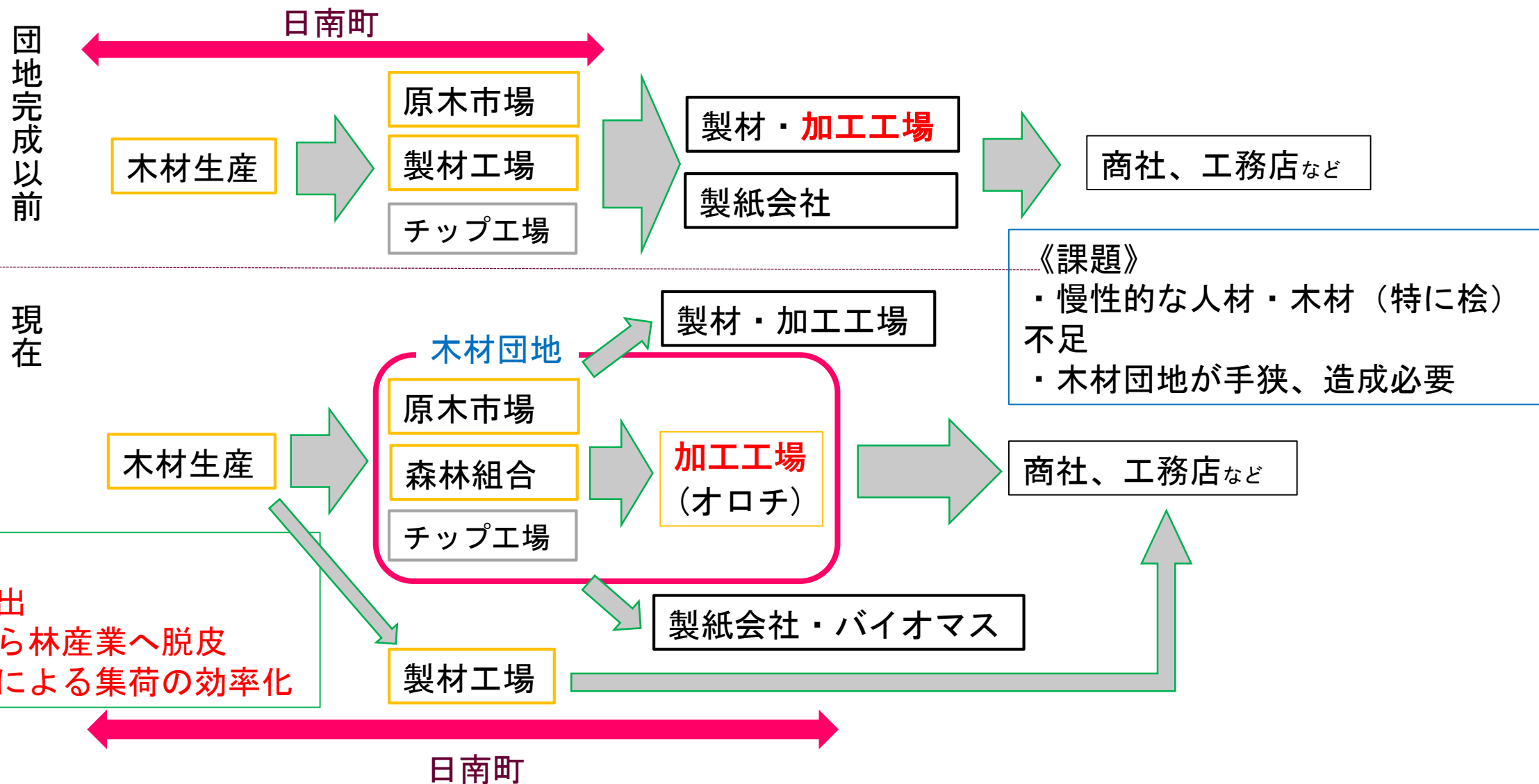
日野川の森林木材団地



日南町における林業就業者数の推移



日南町内の木材流通の変化（木材団地完成前と完成後）



H30年度日南町における素材生産の流れ



● 団地内に施設を集約化したことにより、低コスト、素材の安定供給が実現

● 平成16年度の時点で、市場に出ている材は3万 m^3 程度であったが、平成30年度には、11.4万 m^3 を集積（鳥取県内流通量の1/3）

日南町における不在村地主問題に係る先行的な取組み

- 日南町寄附採納事務取扱基準の制定（平成29年2月）
- 日南町山林寄附採納事務の手引きの制定（平成29年11月）

要件

- (1) 寄附財産に抵当権等所有権以外の権利が設定されていないこと
- (2) 寄附財産の分筆登記が完了していること
- (3) 寄附財産が共有の山林である場合は、共有者全員から無償による寄附について同意があること
- (4) 寄附財産が山林管理上支障を生じない状態にあること

日南町における山林寄附採納の状況（令和元年10月末現在）

寄附相談者（県内4人、県外5人）
9人 101筆 42.1ha



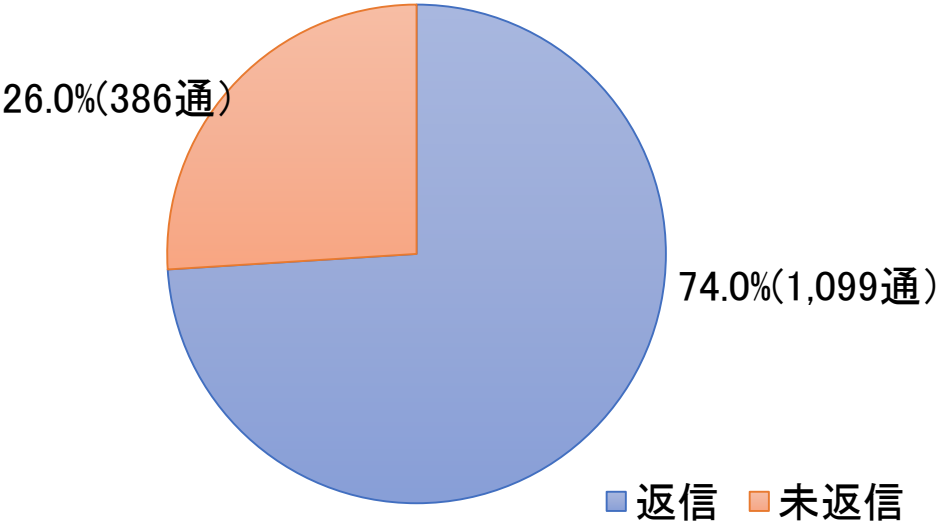
寄附申込み（審査会付議）
4人 49筆 16.8ha



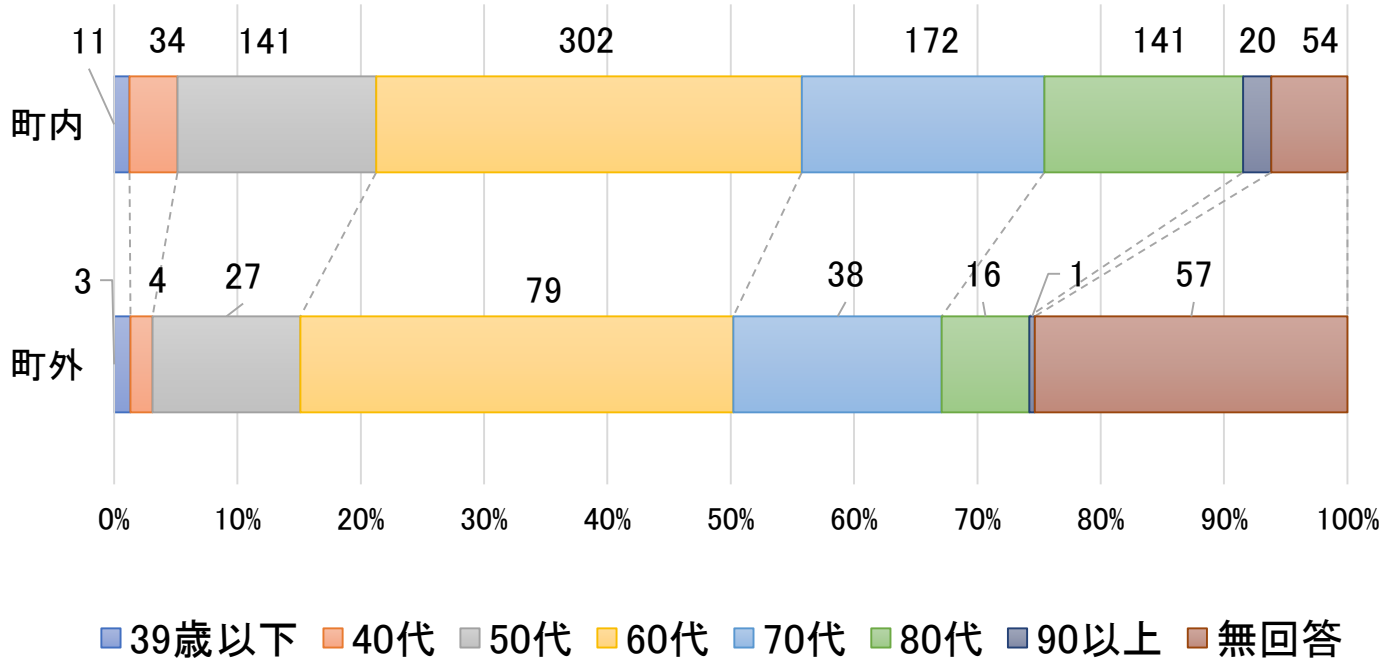
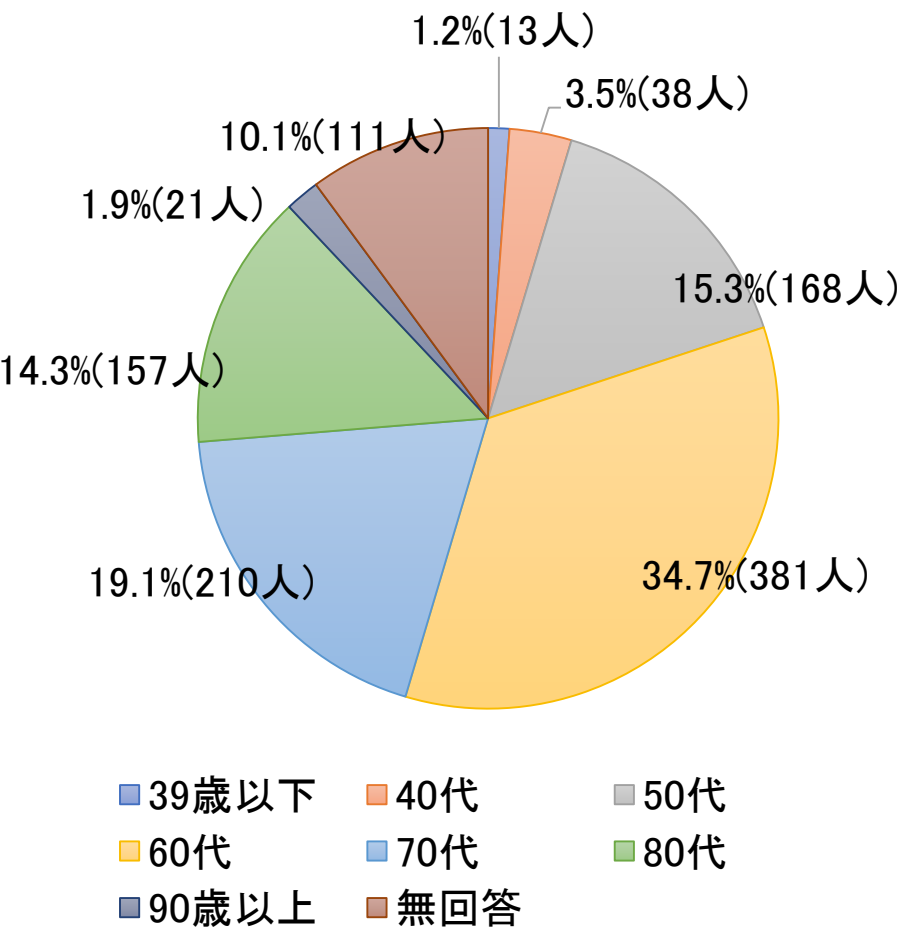
寄附採納
3人 20筆 7.2ha

日南町森林組合山林意向調査の概要

- 目的 町の貴重な森林資源を有効活用と持続可能な森林経営の仕組みを創出するため、今後の山の管理に対する組合員の意向を調査する。
- 対 象 日南町森林組合組合員
- 調査期間 2016年6月～2017年3月
- 調査方法 2016年5月末現在の全組合員(1,485人)に調査票を郵送。（返信がなかった組合員には、担当者が直接聴き取りをするなどし、調査票を回収）
- 回収状況 総発送数 1,485通
 返 信 1,099通
 未返信 386通



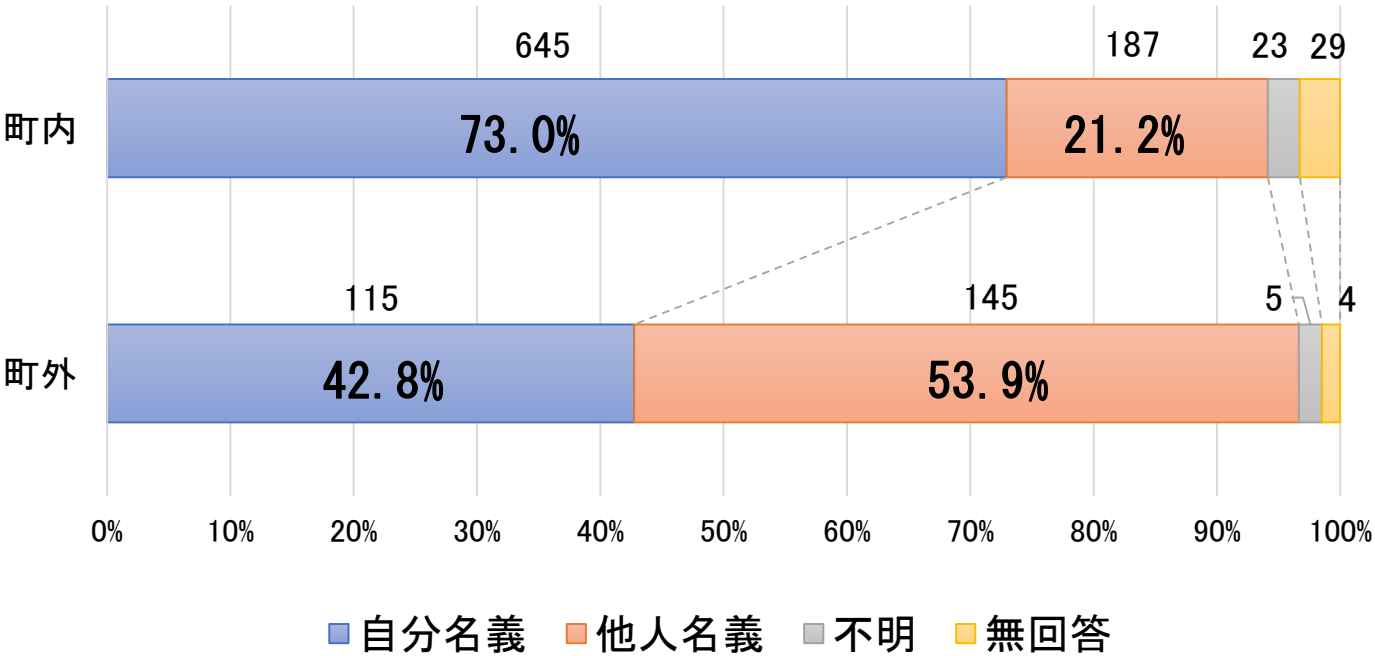
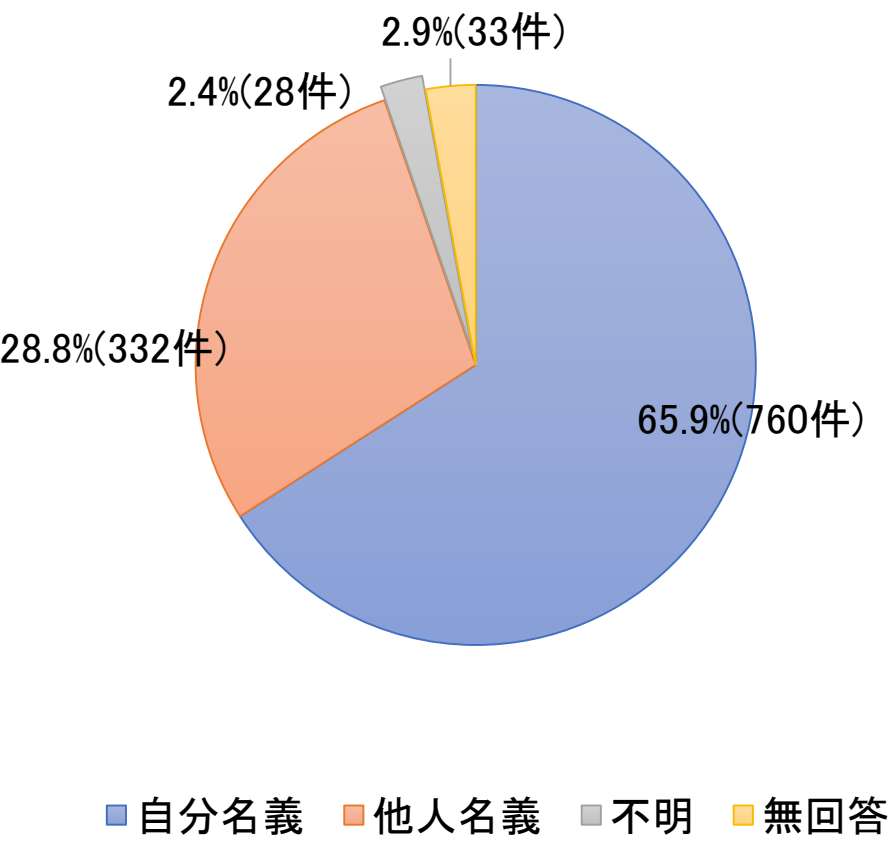
回答組合員の年齢構成（対象者1,099人）



● 回答のあった組合員の年齢構成は、50～70代が全体の約7割をしめており、これは、実組合員の年齢構成とほぼ同じ。

● 町内、町外在住の組合員の平均年齢は、町外在住の組合員が高いとのことであるが、回答のあった組合員の年齢構成に大きな差異はない。ただし、町外在住の組合員の（年齢）無回答率は、25.3%と非常に高い。

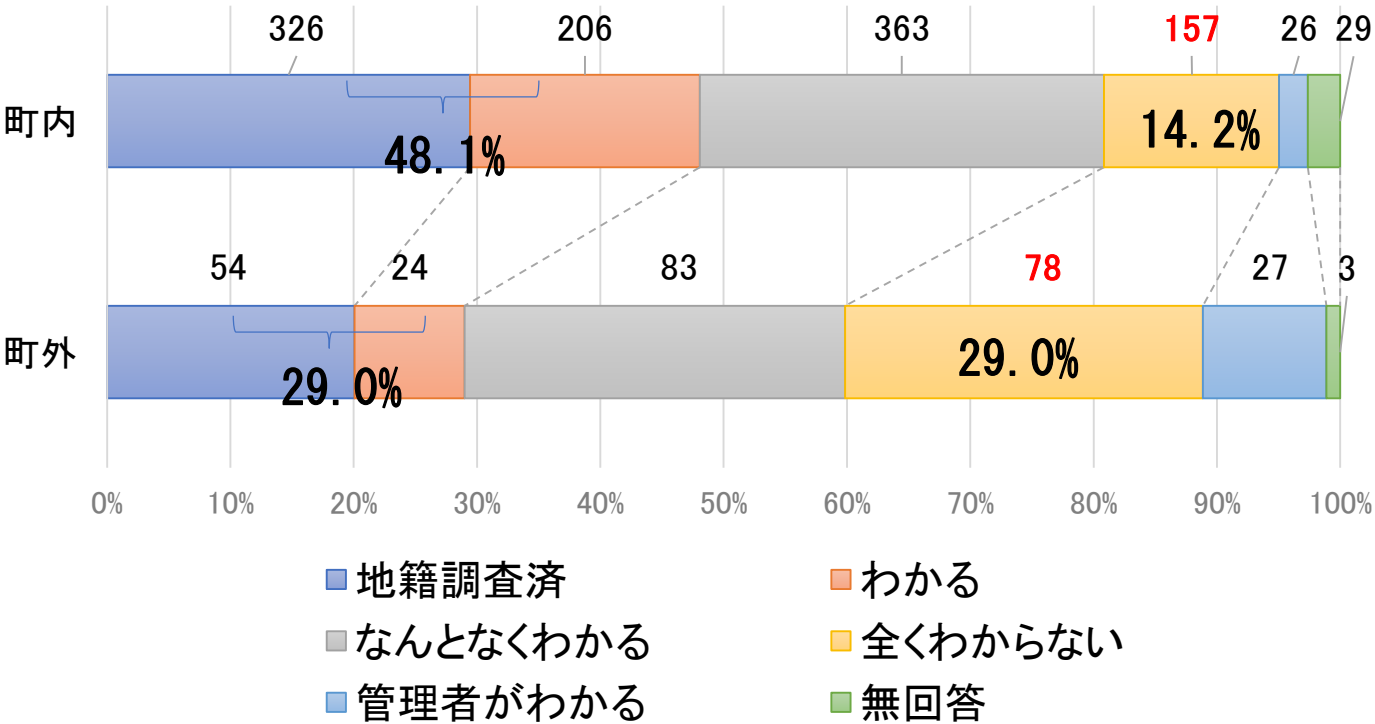
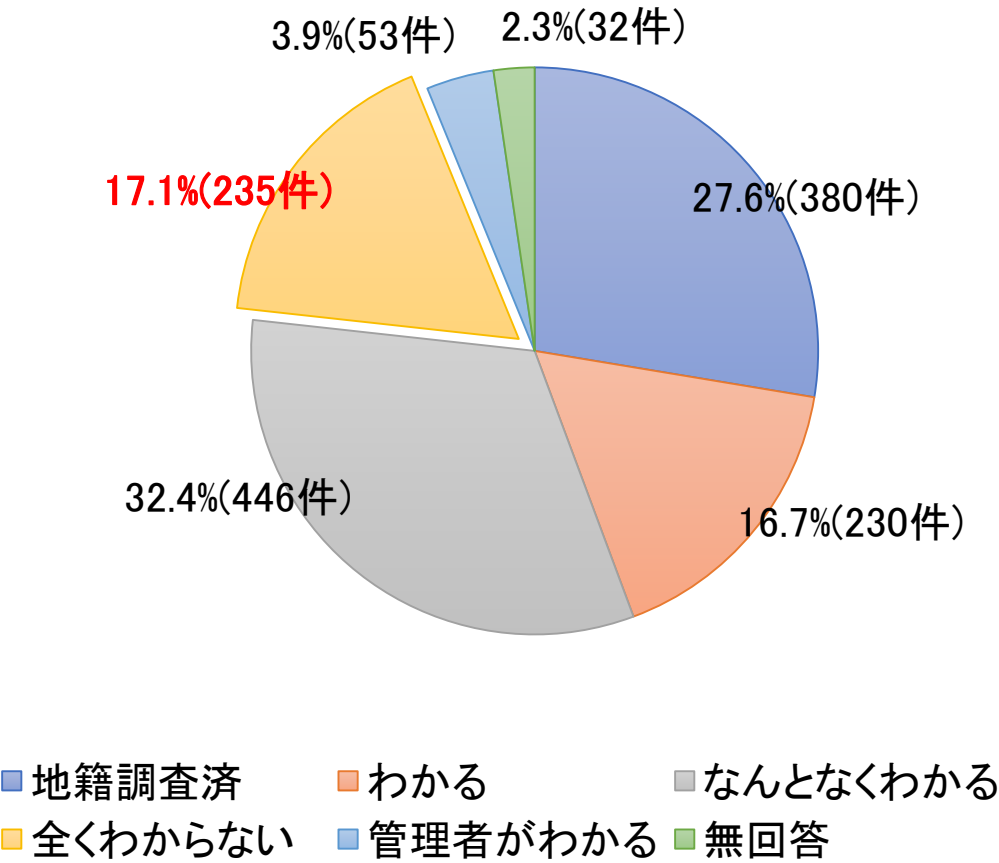
所有山林の名義（回答件数 1,153件）
※複数回答あり



●「所有山林を自分名義にしている組合員」を町内, 町外別に見てみると, 町内在住者は73.0%, 町外在住者は42.8%となっており, 不在村地主問題の背景を裏付けるものとなっている。

●当然のことであるが, 「所有山林が他人名義のままになっている組合員」を町内, 町外別に見てみると, 町内在住者は21.2%, 町外在住者は53.9%となっており, 町外在住の組合員の約5割が相続未了となっている。

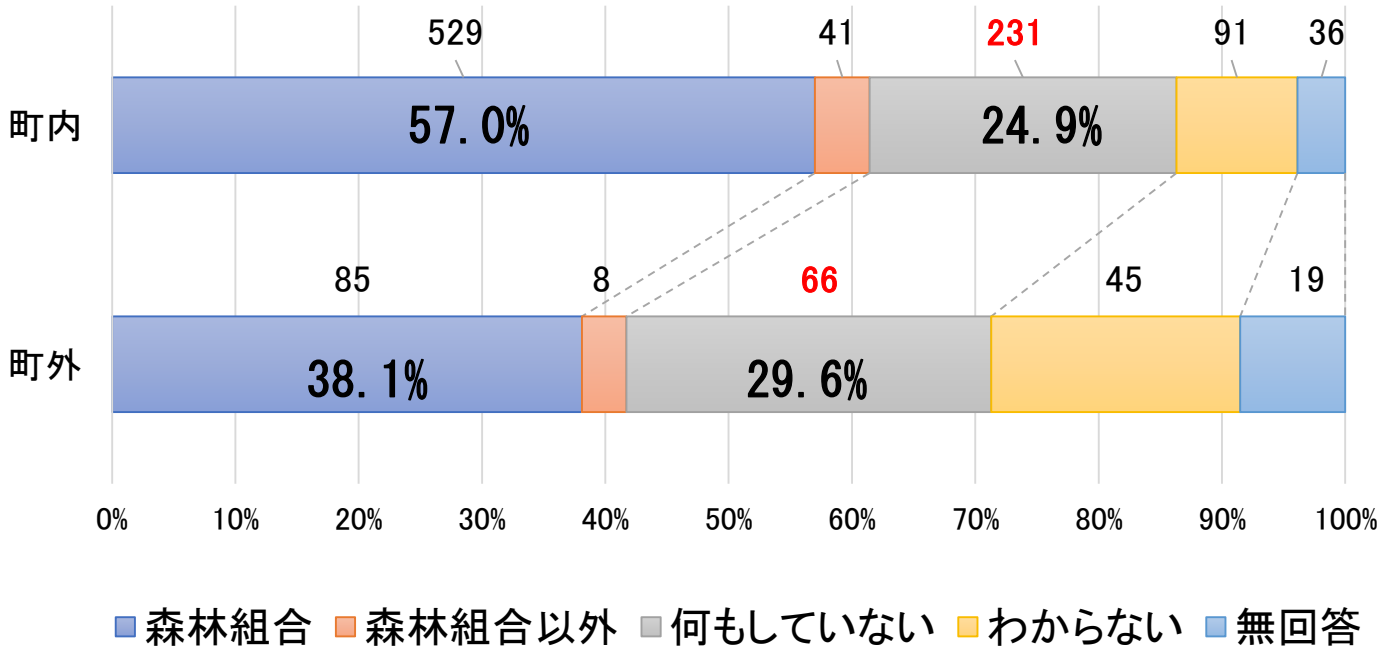
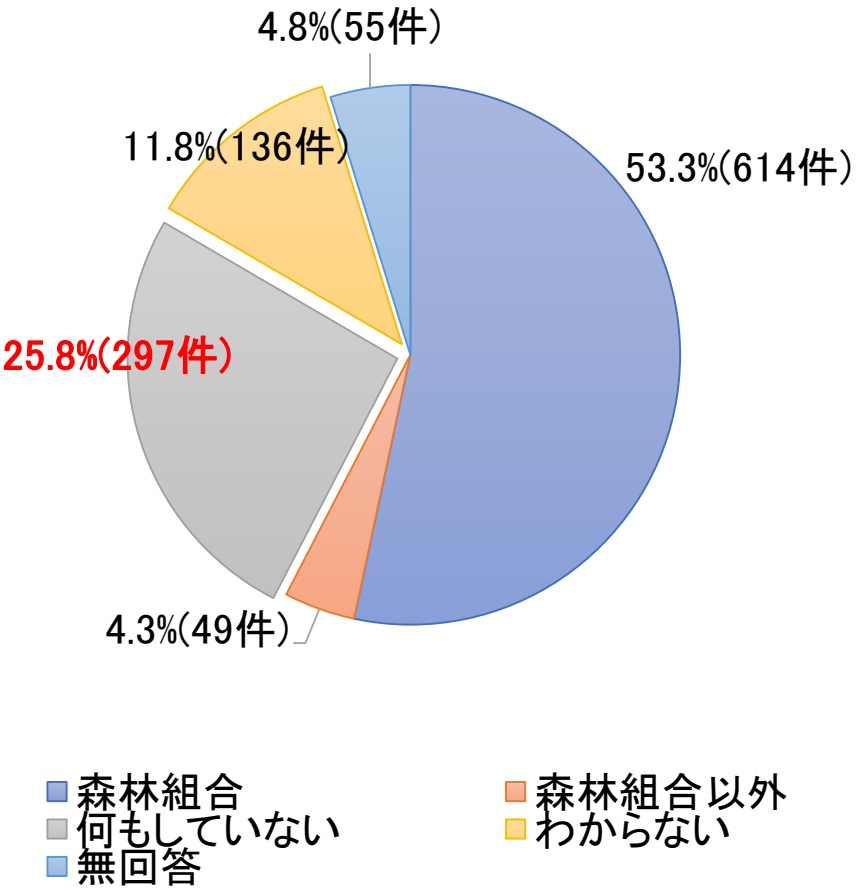
所有山林の境界（回答件数1,376件）
※複数回答あり



●「所有山林の境界がわかる（地籍調査済を含む）組合員」を町内，町外別に見てみると，町内在住者は48.1%，町外在住者は29.0%となっている。自由意見に，地籍調査の推進を望む声が多い。

●「所有山林の境界が全くわからないという組合員」を町内，町外別に見てみると，町内在住者は14.2%，町外在住者は29.0%で，町外在住者の山離れは顕著である。

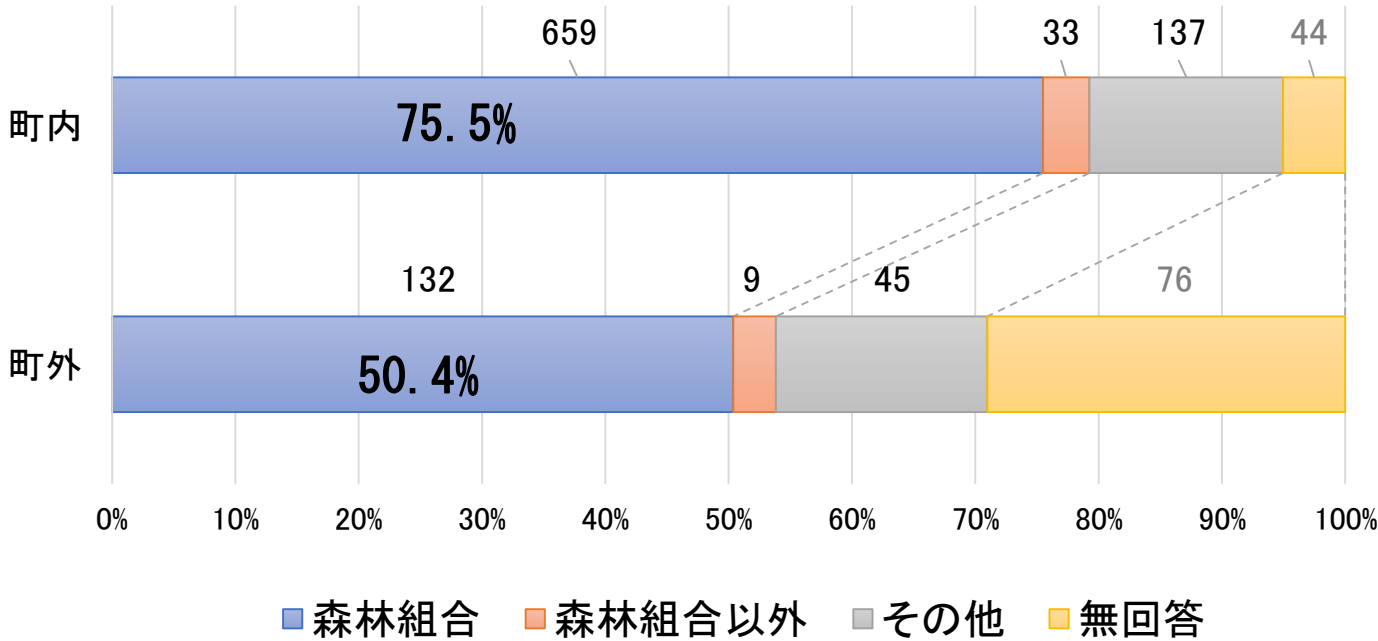
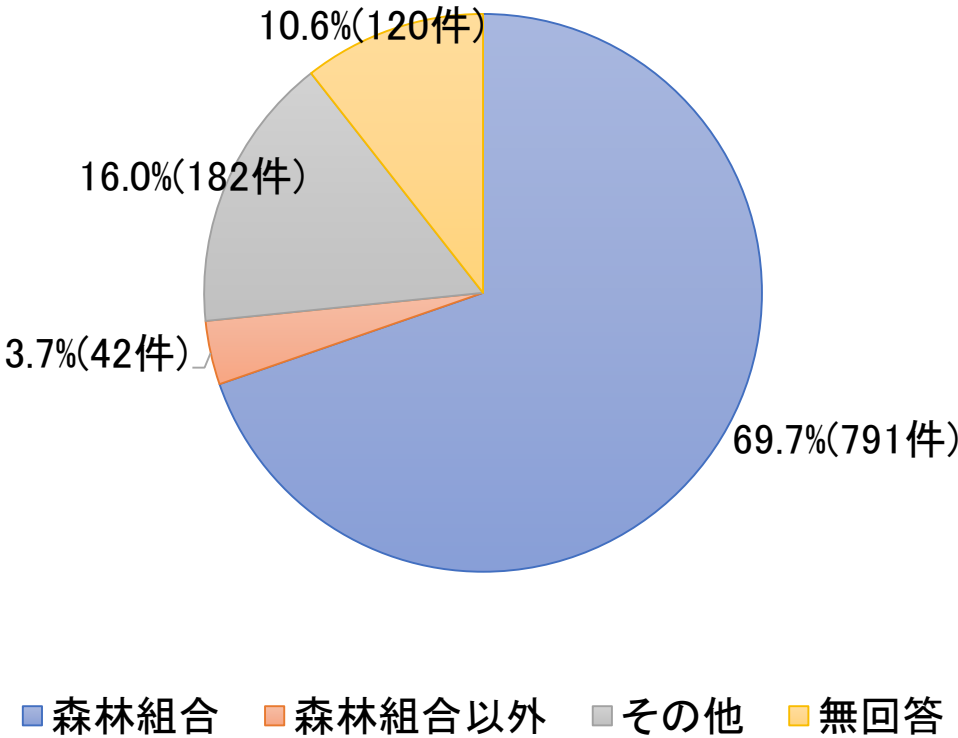
現在の施業（回答件数 1,151件）
※複数回答あり



●「森林組合に施業委託している組合員」を町内，町外別に見てみると，町内在住者は57.01%，町外在住者は38.1%となっている。

●「所有山林について何もしていないという組合員」を町内，町外別に見てみると，町内在住者は24.9%，町外在住者は29.6%で，町内在住者でも所有山林を放置したままにしているという実態が見えてくる。

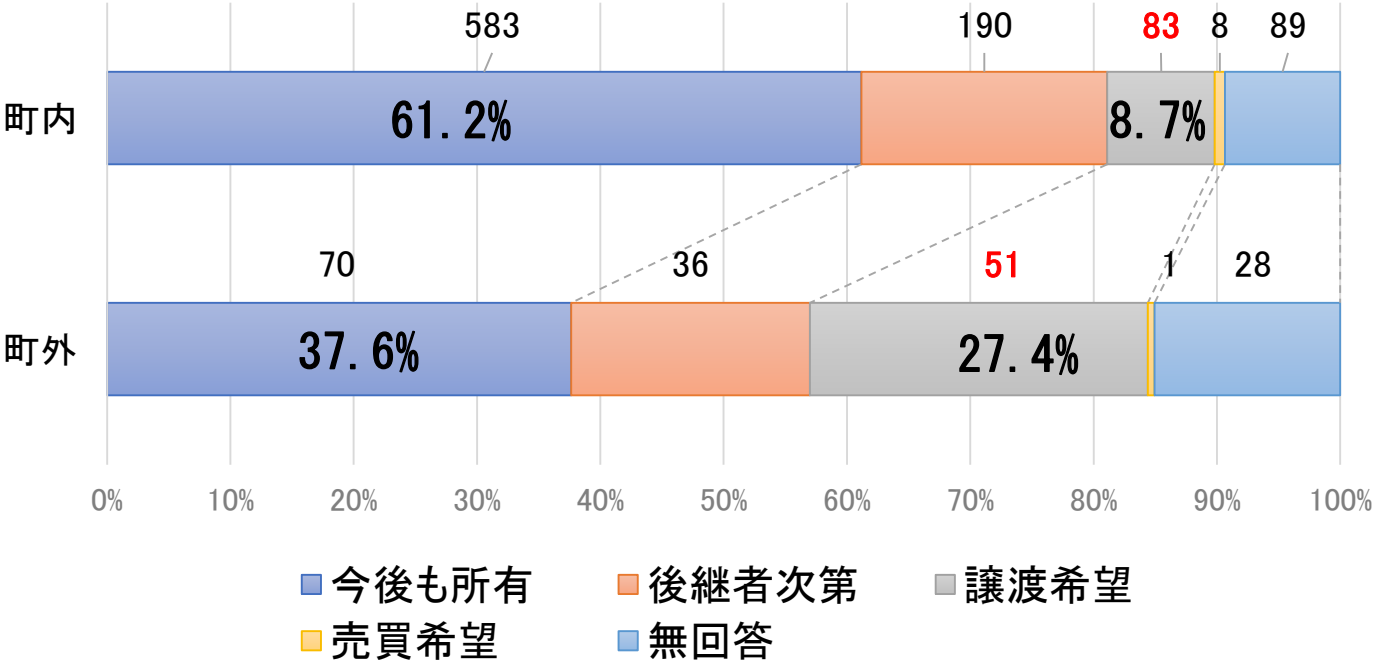
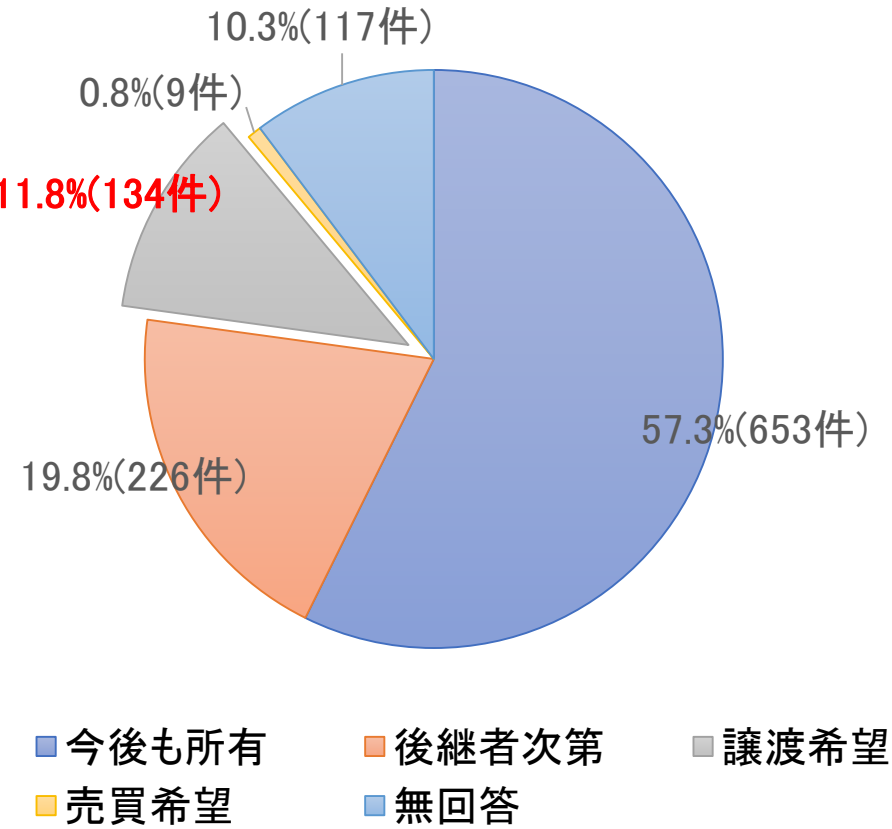
今後の施業（回答件数1,135件）
※複数回答あり



● 今後の施業について、「森林組合に施業委託するという組合員」を町内，町外別に見てみると，町内在住者は75.5%，町外在住者は50.4%となっている。

● 自由意見では，「施業状況の報告が遅い」「施業内容に不満」といった批判的な声もあったが，総じて，町内在住組合員の森林組合の信頼は高い。

今後の山林所有の意向Ⅰ（回答件数 1,139件）
※複数回答あり



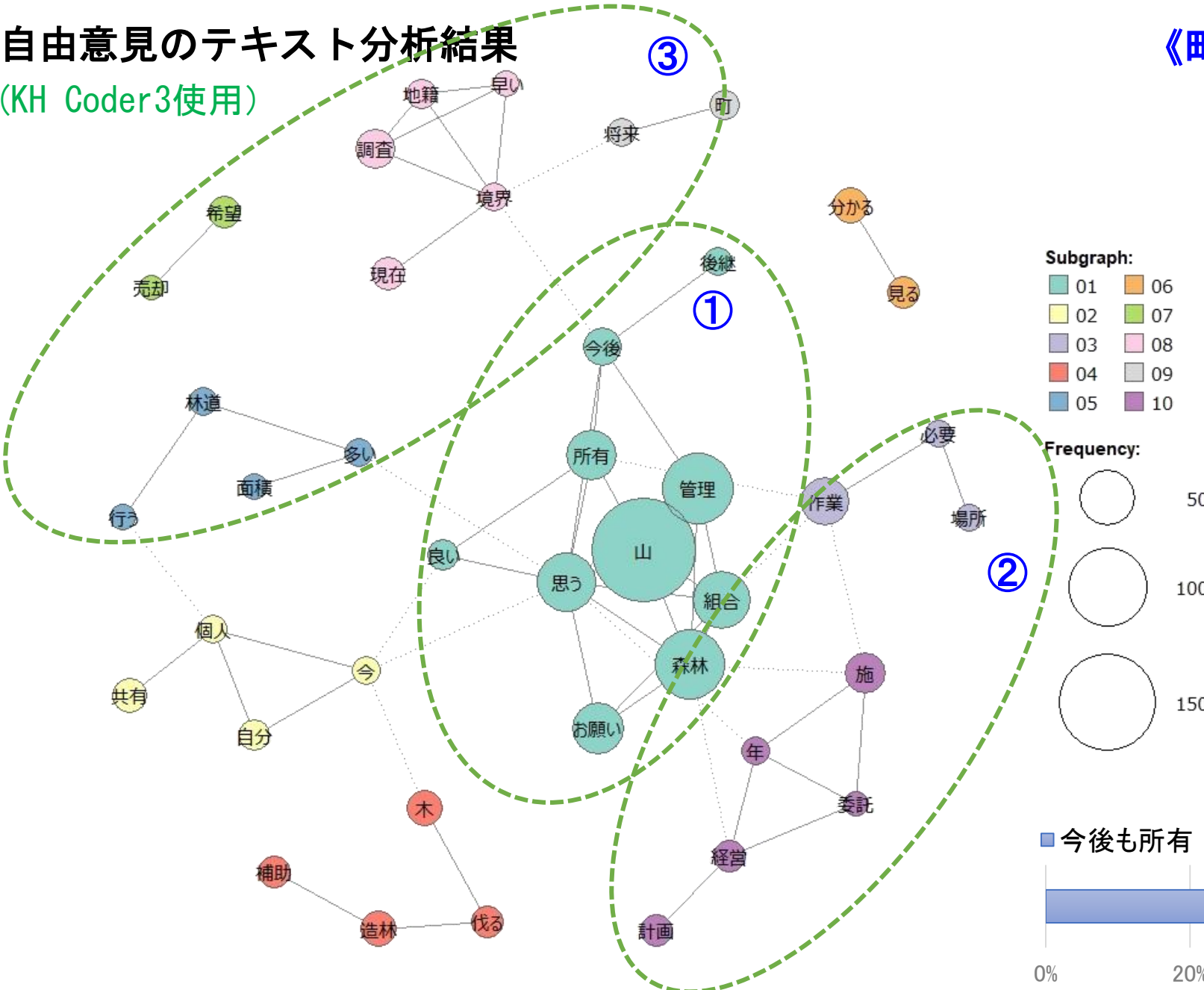
- 「今後も山林を所有していくという組合員」を町内，町外別に見てみると，町内在住者は61.2%，町外在住者は37.6%となっている。
- 「所有山林を譲渡したいという組合員」を町内，町外別に見てみると，町内在住者は8.7%，町外在住者は27.4%で，町外在住の組合員の4分の1が譲渡したいという意向をもっている。
- 「所有山林を譲渡したいという組合員」が町内に83人、町外に51人もおり、少なくともこの人たちの所有する山林が、新たな森林管理システムの対象山林となる可能性は高い。

今後の山林所有の意向Ⅱ（町内と町外在住者の自由意見から）

	今後も所有	後継者次第	譲渡希望
町内在住者	・林道の開設を希望 ・植林をしたが下刈りができない ・皆伐にも補助金を ・森林所有者への利益還元を ・森林組合との経営委託契約による管理を希望 ・若い人に山づくりの基本的な考え方を教えてほしい ・山を売りたいという人の情報を	・地籍調査を進めてほしい ・後継者はいるが山林管理に不安がある ・息子はいるが山の管理をしてもらうとうかわからない ・固定資産税の請求を(代表ではなく)所有者全員に送ってほしい ・相続財産の分割協議が未了 ・所有はしたいが管理できない	・山のことが全くわからない ・山の管理ができていない ・次の代では管理できないので売却したい ・次の世代におくる希望がない ・地籍調査が進まず境界が判然としないまま相続させることが不安 ・森林行政の未来が見えない ・山林全てを売却処分したい
町外在住者	・近い将来居住予定 ・森林組合にお任せする ・良いアドバイスを ・将来の方向性を明確に ・長期的に保有する仕組みづくりを考えてほしい ・管理方法等を教えてほしい ・小規模山林所有者はどうすべきか指導を	・遺産分割協議中 ・家族と相談中 ・売れるようなら売りたい ・今後どのようにしていくのが最良なのか悩んでいる ・地籍調査を早く進めてほしい ・欲しい人がいれば売却する ・森林組合で管理していただければお願いしたい	・具体的な相談会開催を希望 ・維持管理が困難 ・母が元気なうちに売却したい ・固定資産税が大きな負担 ・山の所在地、現状が全く分からない ・境界もわからず売却したい ・後継者もなく管理能力がない ・山林管理が面倒

自由意見のテキスト分析結果

(KH Coder3使用)



《町内在住者》

①第1グループの意見

山林所有に関する意識が高く、
個人管理できなくても森林組合に
作業委託をしてでも管理をしてい
くという人たち

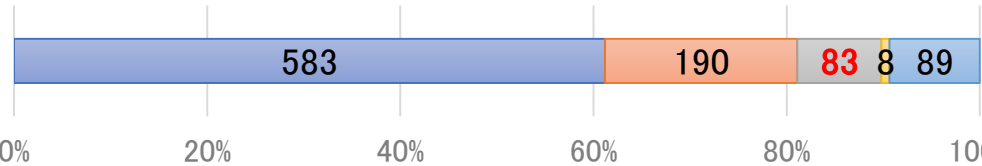
②第2グループの意見

森林管理の必要性を認めつつも
施業委託による管理をせざるえな
いと考えている人たち

③第3グループの意見

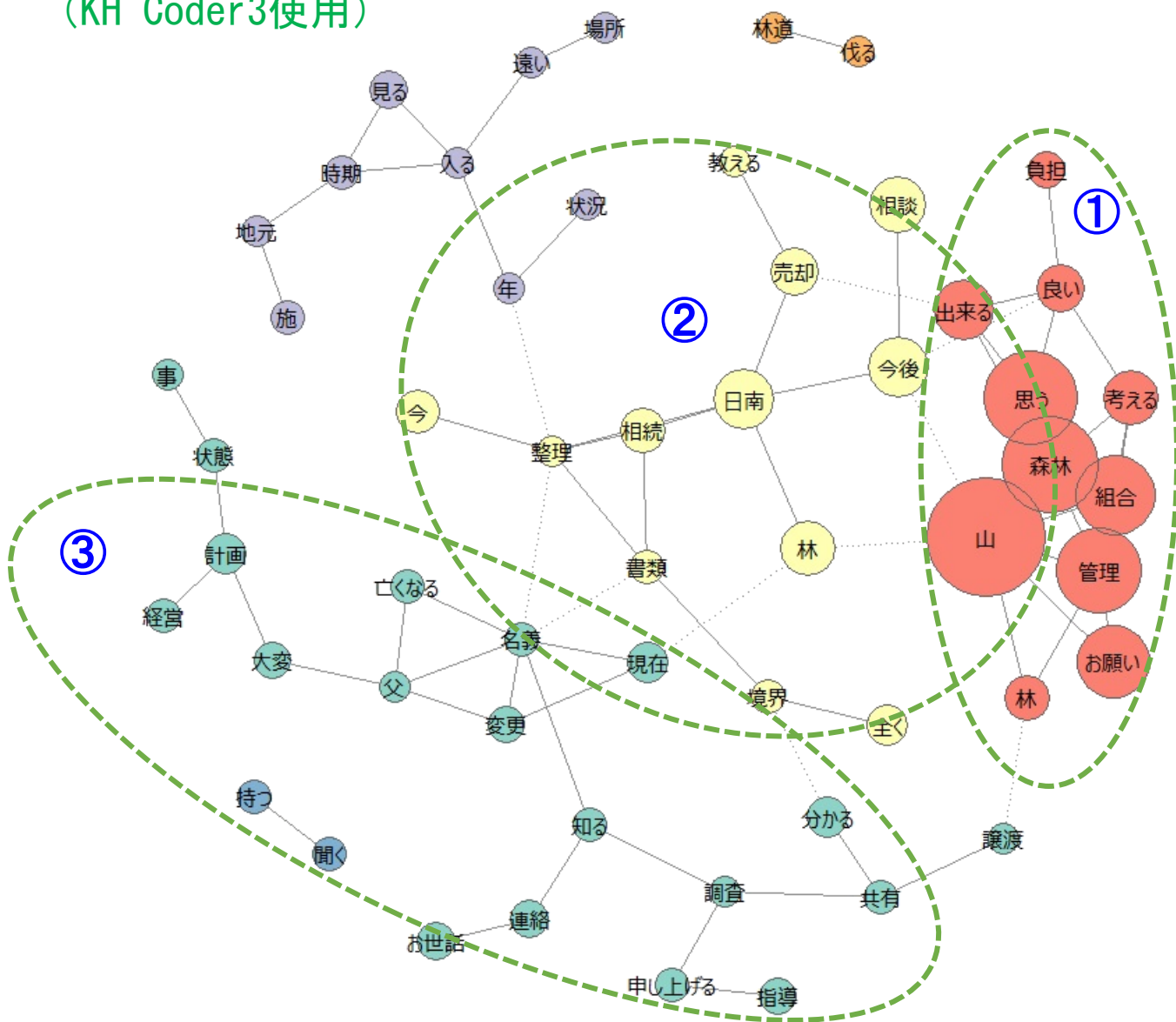
境界を明確にするための地籍調
査の実施、林道の開設などを望む
一方で、将来的な売却も考えてい
る人たち

■ 今後も所有 ■ 後継者次第 ■ 譲渡希望 ■ 売買希望 ■ 無回答



自由意見のテキスト分析結果

(KH Coder3使用)



《町外在住者》

①第1グループの意見

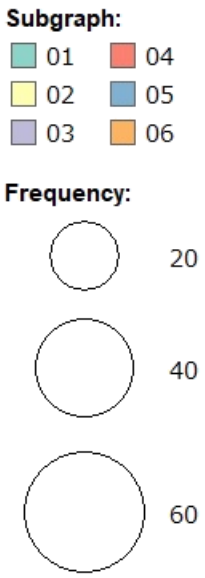
山林所有を負担に思いつつも森林組合に山林の管理をお願いしながら山林所有していくという人たち

②第2グループの意見

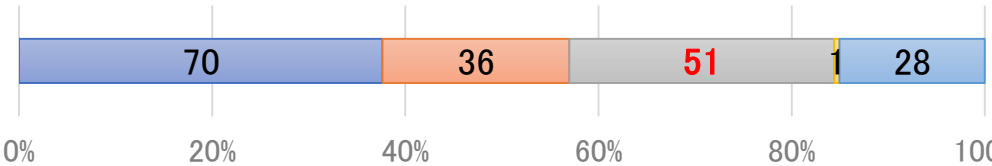
町主催の相談会の開催などを通じて、相続の問題などを整理し、町などに森林をすぐにでも売却できればと考えている人たち

③第3グループの意見

名義変更、経営計画の策定、共有山の問題など、山林管理をやや負担に感じ、将来的には山林の売却を考えたいという人たち



■ 今後も所有 ■ 後継者次第 ■ 譲渡希望 ■ 売買希望 ■ 無回答



最後に

日南町の新たな森林管理システム対象面積（推定）

2,022ha…①

■日南町内の在村・不在村者の森林所有の割合
(森林簿より)

在 村⇒67.6%…②
不在村⇒32.4%…③

在 村⇒1,366.9ha… (①×②)
不在村⇒ 655.1ha… (①×③)

■所有山林を譲渡したいという人
(日南町森林組合山林意向調査より)

在 村⇒ 8.7%…④
不在村⇒27.4%…⑤

※所有山林を譲渡したいという人が、先ずは「経営管理を委託」されるものと推測

①の内、日南町が経営管理を委託される森林面積(推定)は…

在 村…118.9ha (1,366.9ha × ④)
不在村…179.5ha (655.1ha × ⑤)

町が経営管理を受託



在 村…118.9ha
不在村…179.5ha

※森林簿及び日南町森林組合山林意向調査の結果を踏まえての推計

林業経営に適した森林

意欲と能力にある林業経営者に経営管理を再委託

林業経営に適さない森林

日南町が管理

今後の日南町の取組みと課題

- 経営計画未策定の町内山林所有者の意向調査
- 経営管理権集積計画の策定
- 相続登記未済の山林の抽出と相続人との協議
- 現有の町有林2,204ha(内、人工林1,267ha)と同等な公的管理(将来的な再委託も視野に)
- 森林の公益的機能堅持という視点での山林管理
- 森林所有者と山林寄附に関する協議
- 山林寄附採納基準の見直し